

生誕110年記念

三岸節子展

私は燃ゆるづける



三岸節子

2016年
3月17日[木] — 5月15日[日]

会期中無休 開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般800(600)円、大高生500(400)円、中学生以下無料 ※（）内は20名以上の団体料金

主催：公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社 協力：一宮市三岸節子記念美術館 監修：三岸太郎

公益財団法人香雪美術館 〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1 TEL078-841-0652 <http://www.kosetsu-museum.or.jp/>

「花」1989年、「自画像」(部分)1925年 ともに一宮市三岸節子記念美術館蔵



香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART

生誕110年記念

三岸節子展

私は燃えろづける



三岸節子(1905-1999)は、愛知県小信(のぶのぶ)中島村(現・一宮市)に生まれました。東京に出て女子美術学校(現・女子美術大学)を首席で卒業し、その年に洋画家・三岸好太郎と結婚、翌年には女性として初の春陽会入選という華々しい画壇デビューを飾ります。

しかし、好太郎は31歳で急逝。3人の子供を抱えての苦しい生活と困難に直面しつつ、節子は画家として生きることを決意します。制作との厳しい両立を強いられる中、独立美術協会、新制作派協会(現・新制作協会)などへの入選を重ねて、女流画家の第一人者としての地位を着実に築いていきました。そこからつむぎ出された画面は生命力に燃え、さらに拠点の移り変わりとともに作風も大きく変遷します。晩年20年余りを過ごしたフランスでは、ほとぼはしる色彩が、いっそう激しく鮮やかに展開していきました。

本展では、生誕110年を記念して、情熱の画家・三岸節子のデビュー作「自画像」から、93歳の大作「さいたさいたさくらがさいた」まで、激動の人生とともに、その画業を振り返ります。

①「さいたさいたさくらがさいた」1998年 ②「アルカディアの赤い屋根(ガチスにて)」1988年 ③「静物」1943年 ④「二つの太陽」1967年 ⑤「白い花(ヴェロンにて)」1989年 ⑥「らくがき」1973年 ⑦「太陽」1964年 ⑧「ブルゴーニュの一本の木」1985年 ①②③⑤：一宮市三岸節子記念美術館蔵 ④：名古屋市美術館蔵 ⑥：愛知県美術館蔵 ⑦個人蔵 ⑧浜松市美術館



【交通案内】
 阪急「御影」駅南改札口より東南へ徒歩5分
 JR「住吉」駅より北西へ徒歩15分
 阪神「御影」駅より市バス19系統で「阪急御影」下車徒歩5分
 ※美術館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用下さい。

香雪美術館

KOSETSU MUSEUM OF ART
 〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1
 Tel:078-841-0652
<http://www.kosetsu-museum.or.jp>

次回展「神々の姿 神と仏が織なす美」
 5月28日(土)～7月24日(日) 休館日6月27日(月)

講演会

日時：2016年3月17日(木)、4月10日(日) 各日 午後1時～(約1時間45分)
 講演：三岸太郎「三岸節子を語る」 三岸節子がたどった地の風景のライドショーとともに、その生涯と作品、思い出についてお話いただきます。
 定員：50名 [当日11時より整理券を配布します]

ギャラリートーク 会期中の毎週土曜日、午後2時から学芸員によるギャラリートークを行います。

※講演会、ギャラリートークの聴講は無料ですが、別途展示会の鑑賞券が必要です。

関連イベント